



1 2023

発行所 大阪府中央区玉造2-24-22 カトリック大阪大司教区 広報委員会 郵便番号 540-0004 TEL (06) 6941-9700(代表) TEL (06) 6946-3223(直通) FAX (06) 6946-3224(直通) E-mail: jho@osaka.catholic.jp 編集 広報委員会 発行人 前田万葉

本紙「点訳版」「音訳」があります。〈無料〉 ※ご希望の場合は下記まで申込み 「点訳版(点字本)」 時報 ☎06-6946-3223(直通) ☎06-6946-3224(直通) 「音訳(テープ・デジ)」 山口さん ☎0798-34-4228

- ☆ ベトナム神学院訪問 ☆ 聖地巡礼 (2画)
- ☆ りんくろロック・豊中・明石教会設置式 (3画)
- ☆ 司牧者から若者たちにこの一冊 (3画)
- ☆ ラジオ「信仰の時間」中島貴幸神父 (4画)
- ☆ 2023年教区年間予定 (5画)
- ☆ イエスにならう生き方を求めて (6画)
- ☆ イスラムとの対話 ☆ 教区監 (6画)
- ☆ ラジオ「信仰の時間」中島貴幸神父 (4画)
- ☆ 査の集い ☆ 生きる一難民移住者 (7画)

『時報』原稿・資料等の締切は毎月末日です。

世界子ども助け合いの日(献金) 2023年1月29日

2023年新年メッセージ

新春の希望の旅やシノダリティ

大阪教区大司教・枢機卿 前田万葉

皆さま、クリスマスと新年のお慶びを申し上げます

2022年は3年余りの「コロナ禍」、1年近くも続く「ウクライナ危機」という重苦しい年でありました。一方で、「ヨセフ年」から「シノドス開始」へと希望の歩みも始まりました。教皇庁ではそのための改革が始まり、2025年の聖年も「希望の旅」とテーマを決め、「希望に満ち溢れる教会」を目指しています。

1はじめに

「シノドス」といえば、誰もが「教皇と全世界の司教がともに歩むための会議(世界代表司教会議)」だと思っていました。しかし、第16回シノドスはこれを覆すかのように、「教皇も司教も含めて、全世界のすべての信者がともに歩むための会議」と位置付けられました。大きな改革でありました。

2022年8月29・30日には「教皇と全枢機卿会議」があり、教皇庁機構改革(ともに歩むため)について意見交換がなされました。10月12日から30日まで、FABC(アジア司教会議)の50周年総会が行われ、同じく、ともに歩むた

再宣教150年の動き

大阪教区も2018年の再宣教150周年を、教皇フランシスコとともに「感謝をもって過去を振り返り、熱意をもって現在を生き、希望を持って将来に向かう」ための、再出発と位置付けました。そして、『再宣教150年記念誌』で、これからの大阪教区の展望について、次のような意見や思いをまとめました。

「新生計画が策定された1995年頃の状況に比べて、現在は社会も教会も異なってきました。外国人の信徒数が増加していることは確かです。つまり、外国から来ている信徒たちとの交わり、協力、協働が欠かせません。具体的な取り

組みを始めていかなければなりません。もはや、『日本人の教会』ではなく、『日本に住む人びとの教会』であることを意識して、対応することは大切でしょう。『深まり』を大事にし、視野を広げて多くの関わりを『広げる』を通して、『橋を架ける』使命を生きてい



バチカンの広報省総会にて

「今後の方向として、小教区、地区、教区のそれぞれの場で、これまで取り組んでいたシノドスに向けた準備の作業(分かち合い、霊的識別の探求)を「シノドス運動」として継続し、具体的な刷新を実現する方向を整えていくことが望まれます。教皇が使徒的勧告を出されたら、その使徒的

「今後の方向として、小教区、地区、教区のそれぞれの場で、これまで取り組んでいたシノドスに向けた準備の作業(分かち合い、霊的識別の探求)を「シノドス運動」として継続し、具体的な刷新を実現する方向を整えていくことが望まれます。教皇が使徒的勧告を出されたら、その使徒的

「今後の方向として、小教区、地区、教区のそれぞれの場で、これまで取り組んでいたシノドスに向けた準備の作業(分かち合い、霊的識別の探求)を「シノドス運動」として継続し、具体的な刷新を実現する方向を整えていくことが望まれます。教皇が使徒的勧告を出されたら、その使徒的

終わりに

教皇庁の機構改革に合わせて、各大陸、各司教協議会、そして各教区、小教区などでも「シノダリティ(ともに歩む姿勢)のための改革が行われることでしょう。大阪教区でも、教区の機構改革を考える時だと思

「シノドス」は、各委員会を司祭評議会の委員会ではなく、教区宣教司牧評議会の委員会とし、委員長などは広く修道者や信徒からも適材適所に採用することに



コミュニオン ~つながり育つ子どもたち~

したらどうでしょうか。そのためにも、シノドス「ともに歩む教会」交わり、参加、そして「宣教」のための養成は必須であります。さまざま提案の声を取り入れていくのは今からです。分かち合いや意見の交換、シノドスの課題やこれからどういふふうに進んでいくかなど、各小教区、修道会、カトリック施設、各種会や家庭など小共同体でとことん話しあっています。最後の識別は司祭や司教として教皇がすることになるとありますが、皆で雰囲気を作り、いろいろなところに分かち合いのチャンスを生んでいき、正しい「識別」ができますように、ともに祈り、考え、歩むことにいたします。

ベトナム・ヴィン教区

神学院訪問



ベトナムで勉強中の教区神学生2人に会いに、教区養成担当者らは2022年10月17〜21日、ヴィン教区の神学院を訪れた。現地の様子を担当者の赤波江豊神父に聴く。

大阪教区には、ベトナムの北中部にあるヴィン教区神学院で学ぶ2人の神学生、グエン・ヴァン・トゥアンさんとグエン・アン・サオさんがいます(共に神学科2年)。この2年間コロナ禍のため、お互い会うことができなかったのですが、この度ベトナムへの入国が容易になったため、大阪教区養成担当司祭の村田稔神父と筆者、グエン・シン・サク神父の3人でヴィン教区を6日間訪問しました。

ベトナムには、ベトナムの北中部にあるヴィン教区神学院で学ぶ2人の神学生、グエン・ヴァン・トゥアンさんとグエン・アン・サオさんがいます(共に神学科2年)。この2年間コロナ禍のため、お互い会うことができなかったのですが、この度ベトナムへの入国が容易になったため、大阪教区養成担当司祭の村田稔神父と筆者、グエン・シン・サク神父の3人でヴィン教区を6日間訪問しました。



左から順に▶ サック神父、サオ神学生、筆者、ヴィン教区の神学院院長、村田神父、トゥアン神学生、副院長と管理者

毎朝4時の鐘で起床、朝の祈りとミサで一日が始まります。神学院の大きな敷地の中には畑もあり、勉強だけでなく、神学生自ら働いて、野菜や果物などある程度自給し、神学院の財政の助けとなっています。また、19日には2人の神学生の実家を訪問して、大切な息子を大阪教区にさ

聖地イスラエル | 巡礼者の報告

黙想と巡礼の旅



2度の延期を経て、2022年11月17〜29日、酒井俊弘補佐司教、和田幹男神父以下35人での聖地巡礼の旅が実現。エルサレムに5連泊、死海に1泊、ガリラヤ湖畔の修道院のホテルに4連泊。長く思えた13日間の巡礼はあっという間に終わった。(写真:ガリラヤ湖畔ベトロ首位権教会)

の要塞を見学後、羊飼いの野を車窓から眺め、ベツレヘムへ。聖墳墓教会では、聖ヒエロニムスがこもって聖書の翻訳をしていたという洞窟でミサに与り、1時間半並んでイエス誕生の地の位置を示す14の角を持つ銀の星の装飾をこの目で見て、手で触れることができました。

【5日目】嘆きの壁、ダビデの町(ギオン)の泉、シロアムの池)を見学、「最後の晩餐の間」を見てから鶏鳴教会でミサ。

【6日目】岩のドームへ。検閲所を難なく通過。ここはアブラハムがイサクを燔祭(いけにえ)としてささげようとしたモリヤの山で、至聖所であったユダヤ教の聖地。イスラム教の預言者ムハンマドが昇天したとされる岩の上に建てられたイスラム教の聖地でもあり、キリスト教徒にとって

【7日目】エルサレムの西に位置するオプス・デイ属人区のサクスム・ピジター・センターでミサに与り、サクスム聖地博物館を見学。午後はイスラエル博物館を見学してからエン・ボケツクの町へ。楽しみにしていた死海の浮遊体験は真つ暗闇の中で行われた。

【8日目】マサダの岩窟(トビ)の洗礼場を見学後、善き羊飼いの教会でミサ。古代エリコの風景と「誘惑の山(マタイ4:8参照)」を眺め、ガリラヤ湖畔の「幸い連句の聖所(山上の垂訓教会)」に隣接する聖フランシスコ修道会のホテルへ。ホテルのチャペルでは神の声を聴く静かな時間を過ごすことができた。

【9日目】カナの婚礼教会でミサ。2組の夫妻が結婚の更新と祝福を受けられた。タボル山の主の変容教会、パンと魚の教会を訪れ、古代舟に乗ってガリラヤ湖遊覧。舟に乗るなり雨が降り出した。風が吹き、聖書の場面を思い浮かべながら、主イエスが湖の上を歩いて来られる姿を想像した途端、雨は止み、湖面をまたぐ丸い虹がくっきりと浮かび上がった。恵みの体験であった。

【10日目】ヘロデ王の造った港カイザリアで導水橋、円形劇場、十字軍時代の要塞を見てからナザレの町へ。受胎告知教会の主聖堂でミサ。聖ヨセフ教会も見学し、ティポリの遺跡へ。

【11日目】和田神父、酒井司教の講話と黙想のあと、山上の垂訓教会で野外ミサ。ペトロが信仰告白をしたファイリポ・カイザリアを訪れ、ペトロ首位権教会では食卓の岩に触れ、カファルナウムの会堂跡、ペトロの家を見学。

【12日目】北部の都市

ハイファを通り、カルメル山の聖堂で巡礼最後のミサ。

行く先々の巡礼地で聖書学者の和田神父が旧約・新約の解説をしてくださり、酒井司教がミサの度に短いお説教をしてくださった。和田神父は「巡礼とは霊的刷新の達成」であると言われた。神の声を聴き、これからの道を見出していくための貴重な体験であった。旧約の世界がわずかに広がったような気がする。主イエスはどこにいても、いつもそばにいてくださるけれど、ガリラヤ湖畔では特にそれを強く感じた。

今回の巡礼は若者の参加者が多く、カトリックの洗礼を受けておられない方々もおられ、良い時間をともに過ごさせていただいた。聖書の解説を各地でしてくださった和田神父様、毎日素晴らしいミサとお説教をしてくださった酒井司教様、現地ガイドの西郷さん、添乗員の小池さん、丸山さんに参加者一同、心から感謝。(巡礼参加者A・H)



ガリラヤ湖の朝

① 聖地巡礼の写真集



りんくうブロック・豊中・明石教会堅信式

真の友情を深めて

2022年の11月には、りんくうブロック・豊中教会、明石教会で、合計24人の堅信式が行われた。コロナ禍により、ブロックではなく小教区ごとに堅信式が行われる傾向にある。各地の喜びとお祝いの声を届ける。



りんくうブロック

りんくうブロック

りんくうブロック(貝塚・泉佐野・熊取教会)では6日(日)9時半、泉佐野教会で9人が堅信の秘跡を受けた。酒井俊弘司教とフラビオ・ベスコ神父の司式。中高生の受堅者を子どもの頃からよく知る共同体の全員がその成長を喜び、堅信式とともに与れる喜びに満ちたミサとなった。

主司式者の酒井司教は「私たち信者にとってイエス様こそ、真の親友です。そして友情を深めるには話をし、友達のために時間を裂くことが大切です。ミサに与ることは、イエス様と話し、時間を裂くことです」と受堅者に語りかけた。

受堅者の感想

「ミサの雰囲気がいとも違っていて緊張した。司教様と初めてお話ができてうれしかった。堅信の準備の勉強をしたみんなと一緒に堅信を受けることができてよかった。堅信を受けて一人前のキリスト者として責任を感じた」

豊中教会

13日(日)10時から豊中教会で8人(成人3人、中学生4人、小学生1人)の堅信式が行われた。司式は酒井俊弘司教と野田正弘神父。コロナ禍のため、参加者は堅信・七五三の祝福の関係者70人に制限した。

酒井司教は説教で「堅信とは霊魂に限りない恵みを刻み込むこと。その恵みはスイッチを入れないと動かないのだから、堅信をただ受けるだけでなく自ら行動しよう。平和の道具になれるよう神に願おう」と呼びかけられた。



豊中教会

「緊張したがとても感動した」「按手のときは胸が熱くなった」「皆が飾り付けをしてくれてありがたかった」「素敵な堅信式をしていただきありがとうございます」

受堅者の感想

「今日の堅信に向けての学びを活かし、神様の道をしっかりと歩んでいきたい。そして、日々の多くの出来事の中に聖霊の働きがあることに感謝し、神様に思いを寄せる時間をもてるようにしたい」

明石教会

「王であるキリスト」の主日の20日(日)10時から、前田万葉大司教と高橋聡神父の司式で明石



明石教会

教会で7人(小中学生・成人)の堅信式を行った。

前田大司教は「堅信の秘跡では、キリストのあかし人」として福音を伝える力をいただくために聖霊の恵みを受ける。キリストはご自分の命を犠牲にしてまで人間を愛された。神と人間を十字架によって繋がれた。このキリストの姿に倣うことがキリストのあかし人となるということ」と説明。「オリリーブの香り 聖霊降臨す」という句を受堅者に贈った。

7人の受堅者は緊張しつつも司教から塗油を受け、力強く「アーメン」「主の平和」と答え、自らキリスト者として生きる決意を表していた。

受堅者の感想

「今日の堅信に向けての学びを活かし、神様の道をしっかりと歩んでいきたい。そして、日々の多くの出来事の中に聖霊の働きがあることに感謝し、神様に思いを寄せる時間をもてるようにしたい」



司牧者がリレー形式で若者たちにぜひ読んでほしい書籍を紹介し、青年たちの読書感想文を掲載する連載。今回は、松浦信行神父(梅田ブロック・サクラファミリア)が担当。

松浦信行神父からこの一冊



『ジョークとトリック 頭を柔らかくする発想』(織田正吉著、講談社新書706、1983年、税込946円)

2019年の11月、ローマ教皇フランシスコが訪日。最終日、日本のイエズス会本部を訪問した。そこで実現したのが、教皇とイエズス会の元総長アドルフ・ニコラス師との出会いである。ニコラス師の総長時代、当時アルゼンチンで軍事政権との微妙な舵取りをしてきたホルヘ・マリオ・ベルゴリオ師(現教皇フランシスコ)と一部のイエズス会士との間にあった摩擦を解

消するために、ニコラス師が助け船を出していたと聞いたことがある。

そのニコラス師の、東京カトリック神学院での授業、神が人間を救うためになされた人格的出会いを論じる「啓示論」の教科書のひとつがこの新書本である。たぶん、神がご自身を私たちに示される「交わり」を、人間の既存の考え方にとどまることなく、柔らかい発想を持って捉えるようにとの親心から、ニコラス師がこの新書本を教科書にしたのではないかと今になって思う。

例えば(私はこの話を中高生の錬成会によく使うのだが)、次の問い。「急な上り坂で、重い荷車を引っ張り上げようとする人と後ろから押す人がいる。前の人に『後ろの人はあなたの息子さんですか?』と聞くと『そうです』と答える。後ろの人に『前の人はあなたのお父さんですか?』と聞くと『いいえ、違います』と答える。この二人の関わりは?』答えは「息子とお母さん」。「急な坂道」と「重い荷車」ということで、知らないうちに2人とも男性と考えてしまう私たちの傾向が見て取れる。

第2例は、「夜のビルで2人のガードマンが見張りをしている。1人は東を向いて、もう1人は西を向いている。1人が『君の服の上から2番目のボタンが外れている』と指摘した。どうしてそれが分かったのだろうか?』という問いだ。答えは、「二人は向き合っていたから分かった」。つい

「背中合わせに」と思ってしまう人間の心が、答えを不明にしてしまうことがある。

ジョークは笑いによって私たちの固定観念の枠を壊し、知性を刺激すると著者は私たちに問いかける。発想の自由さが神を見つめることだ、とのニコラス師の心は私の中に生きている。



今回は、Srグロリア・エリシオールダナ(梅田ブロック)です。

若者の読書感想文募集

- ① 年齢は35歳まで。カトリック信者、もしくはカトリック教会と何らかの関係がある方(カトリック校や諸施設の在籍者又は卒業生、保護者、関係者など)。
- ② 感想は400字程度。氏名、所属、顔写真(自由)を添えてメール(jiho@osaka.catholic.jp)か郵便にて送付(掲載にあたり編集する場合あり)。
- ③ 感想を送ってください。た方全員に教区オリジナルしおり(4枚組)を進呈いたします。

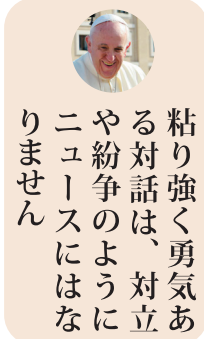


ガラシア病院 合同慰霊祭

この合同慰霊祭は毎年11月に行われている。対象は、前年の9月から翌年の8月までの1年間に亡くなられた「ガラシア会」関係者。2022年は11月14日(月)に行なわれた。今回、具体的には病院の入院患者・介護老人保健施設の入所者・在宅部門などで関わりがあり、亡くなられた方々297人。さらに、職員の家族関係で13人の合計310人だった。司式はガラシア会の理事、酒井俊弘補佐司教。コロナ禍前は病院のホールで100人以上のご遺族と共に祈りをささげ、その後、茶話会も設けられていたが、前年同様、今回も病院のチャペルで特定のスタッフと共に祈りをささげ、その様子を後日YouTube動画でご遺族に観ていただくという方法を取った。

酒井司教は式の中で「16世紀に始まった、日本で初めてのキリスト教病院や『ミゼリコルディア(慈悲)』というキリスト教精神に基づく孤児・老人施設」に触れ、「現在のガラシア会もその精神を受け継いでいる」と話された。

(文 ガラシア病院チャプレン 松本信愛神父)



第6章「対話と社会的友愛」

粘り強く勇氣ある対話は、対立や紛争のようにニューズにはなりません

198 多くの寛大な人の粘り強い対話がなければ、世界がどうなっていたかを考えてみれば十分です。粘り強く勇氣ある対話は、対立や紛争のようにニューズにはなりません。わたしたちが考えている以上に、世界にとって、よりよく生きる

キーワードで読み解く

兄弟の皆さん

連載第5回(全7回)

酒井俊弘補佐司教

第6章「対話と社会的友愛」の教皇フランシスコならではのキーワードをご紹介します。

ことに、目立たないながらも役に立っているのです。

第6章のテーマは「対話」。ニューズになつて飛び込んでくる対立や紛争の背景には、必ずといっていいほど対話の不足があります。それは一対一の友人や家族間でも、民族や国家間でも同じです。

いかなる合意をも超越した……妥協の余地のない価値

211〜212 基本的価値が対話

対話による合意が必要不可欠であることは、相対主義と同じではないと教皇は述べます。対話を通して絶対的な真理に至るのです。

対話という武器……出会いという優れた格闘

217 異なるものをすべて組み入れることは、はるかに困難で時間がかかることではあります。真の堅固な平和を保障するものです。……子どもたちには、対話という武器を装備させましょう。出会いという優れた格闘を教えましょう。

次世代の子どもたちにもこの武器と格闘を継承するために、大人たちがまずそれを身に着けましょう。

そんな優しい人が現れる奇跡

224 今日では、他者に優しく接するために、「いいですか」「ごめんなさい」「ありがとう」と口にしている一瞬の時間もエネルギーも、ほとんどなくなってしまう。それでも時折、無関心がはびこる中、自分の心配事や急ぎの用事は二の次にして、注意を向け、微笑みかけ、励ましの言葉をかけ、話を聞くための時間を作る、そんな優しい人が現れる奇跡が起こるのです。

第6章の締めくくりには教皇は現代世界が必要としている奇跡を語ります。この奇跡なら私たちにもできそうです。



ラジオ 信仰の時間

待つことを知る

〈11月27日放送分〉



中島貴幸神父 (オプス・デイ属人区)

この記事を目にされるときは、待降節は終わっていることでしょうか。しかし、待降節の精神の一面を考えるのは、どの季節においても有益だと思います。待降節は年末の慌ただしい季節に重なります。その雰囲気の中で、カトリック教会は「待つ」ということに目を向けるように呼びかけます。

以前、Sr 渡辺和子の著作を読んでいて、ドキッとした言葉に出会いました。それは、「あなたは、エレベーターに乗った時、閉まるボタンを押しますか?」というものです。私自身を振り返ってみると、ほとんどの場合は閉まるボタンを押していることに気がきました。シスターの

お話は、その問いかけに続いて、「なぜ、閉まるボタンを押すのですか? だまっていても自動的に閉まるのではないですか? なぜ、待たないのでしょうか?」という具合に、自分の心を見つめ直すように語りかけていました。確かに、そのボタンを押せば、数秒早く扉が閉まるでしょう。しかし、いつも閉まるボタンを押すのであれば、待つことのできない心の状態を示していると言えるかもしれません。

ヤコブの手紙に次のような言葉が記されています。「兄弟たち、主が来られるときまで忍耐しなさい。農夫は、秋の雨と春の雨が降るまで忍耐しながら、大地の尊い実りを待つのです。あなたがたも忍耐しなさい」(ヤコブ5・7~8)。農夫たちが、自然の恵み、実りを、忍耐して待つように、わたしたちも神の恵みを待つように、という教えです。

待つ、これは、社会生活の中で忘れがちな、大切な知恵であると思います。教育に関するお話の中で聞いたことです。子育て真っ最中のお母さんたちが、子どもに向ける代表的な言葉は、「はやくしなさい」なんだそうです。子どもの動作が遅く感じられ、待てないのですね……。しかし、この言葉は、かえって子どもたちを委縮させ、時には子どもたちの心を傷つけ、自信を失わせる危険な言葉なのだそうです。せっちな心、慌てる心は、自分の心の平和も失わせるし、周りの人たちの心も傷つけてしまう危険な状態です。

待つことを意識して過ごしてみませんか? まずは、エレベーターの閉まるボタンを押さな

いことから始めてみましょう。わずか2、3秒を待つことのできない自分に気づき、驚くことでしょうか。その次には、家族とのおしゃべりの中で、待つことを意識してみてください。気のおけないおしゃべりでは、相手が何を言いたいかを汲み取ろうという意識が希薄になりがちです。せめて相手が話し終わるまで待ってみましょう。さらに、お出かけ前の慌ただしい時など、気を付けないと、忘れ物をしがちです。慌ただしいからこそ、一度、椅子に腰かけて、落ち着いて、持ち物をチェックしたり、予定を再確認してみましょう。何分間も座る必要はありません。わずか30秒ほどでいいのです。この「ちょっと腰かけて」という行動は、心を平和にしてくれます。椅子に座って、「忘れ物をしないように思い出させてくださいね!」と神様に語りかけてみましょう。そうすると、忙しいさなかに、実は祈っていることにもなります。

待つことが身についていくなら、人間関係において、広い心、広い視野で人と関わることができるようになります。人に対して待つことは、愛の業です。待つことは、愛徳であり、したがって、神の慈しみの心で人びとと接することです。この待つ力を神様に願いましょう。

毎週日曜日 5:50~6:00AM 放送
1月担当: 酒井 淳神父
ABCラジオ(朝日放送) AM1008/FM93.3
スマホアプリのradikoでも聴けます。

2023年度 大阪教区 年間予定

— 2022年12月1日現在 —



1 月	
1 日	神の母聖マリア 世界平和の日
5 木	(教区本部事務局2023年始業)
8 日	主の公現
9 月	主の洗礼
12 木	常任司教委員会
15 日	14時 第20回 教区宣教司牧評議会
17 火	教区新生の日〈1・17〉
18 水	キリスト教一致祈禱週間(～25日迄) 10時 顧問会 13時半 第197回 司祭評議会
25 水	10時半 教区月修
28 土	聖トマス・アキナス司教教会博士 前田万葉大司教霊名
29 日	世界こども助け合いの日(献金)

2 月	
2 木	主の奉献〔常任司教委員会〕
3 金	福者ユスト高山右近殉教者
4 土	ユスト高山右近列聖祈願のつどい
5 日	日本26聖人殉教者
8 水	10時 顧問会
11 土	世界病者の日
12 日	新教会建設献金の日
13 月	〔定例司教総会〕(～17日迄)
22 水	灰の水曜日(大斎・小斎) 四旬節愛の献金(四旬節中)

3 月	
1 水	10時 顧問会
9 木	〔常任司教委員会〕
10 金	性虐待被害者のための 祈りと償いの日
17 金	日本の信徒発見の聖母
20 月	聖ヨセフ
21 火	大阪教区司教座聖堂献堂記念日 教区召命の日 教区司教座聖堂再献堂60周年
25 土	神のお告げ
29 水	10時半 教区月修 13時 顧問会 (4月分繰上)
31 金	教区会計年度末

4 月	
2 日	受難の主日(枝の主日)
5 水	11時 聖香油ミサ 司祭金銀祝
6 木	聖木曜日(主の晩さん)
7 金	聖金曜日(主の受難、大斎・小斎) 聖地のための献金
8 土	聖土曜日
9 日	復活の主日
13 木	〔常任司教委員会〕
16 日	神のいつくしみの主日
19 水	13時半 第198回 司祭評議会
26 水	10時 顧問会 (5月分繰上)
30 日	世界召命祈願の日

5 月	
11 木	〔常任司教委員会〕
14 日	世界広報の日(献金)
24 水	10時半 教区月修 (甲山墓参ミサ)
28 日	聖霊降臨の主日
29 月	教会の母聖マリア
31 水	10時 顧問会 (6月分繰上)

6 月	
1 木	〔常任司教委員会〕
4 日	三位一体の主日
11 日	キリストの聖体
13 火	大阪管区司牧者研修会 (～14日迄)
16 金	イエスのみ心
17 土	聖母のみ心
24 土	洗礼者聖ヨハネの誕生
25 日	聖ペトロ使徒座への献金 14時 第21回 教区宣教司牧評議会
29 木	聖ペトロ 聖パウロ使徒 パウロ酒井俊弘補佐司教霊名

7 月	
1 土	福者ペトロ岐部司祭と187殉教者
6 木	〔常任司教委員会〕
12 水	10時 顧問会 13時半 第199回 司祭評議会
18 火	〔臨時司教総会〕(～21日迄)
23 日	祖父母と高齢者のための 世界祈願日
26 水	10時半 教区月修

8 月	
6 日	主の変容 平和旬間(～15日迄) カンボジア教会の日の献金
9 水	教区教員養成会(～10日迄)
15 火	聖母の被昇天 (教区本部事務局 休業)
18 金	青年と子どもの鍊成会 (予定～20日迄)
21 月	教区司祭修養会(～25日迄)

9 月	
1 木	すべてのいのちを守るための月間 (～10/4迄)
3 日	被造物を大切にす世界祈願日
7 木	〔常任司教委員会〕
13 水	10時 顧問会
14 木	十字架称賛
23 土	14時 病者・障がい者とともに 歩むミサ(カテドラル)
24 日	世界難民移住移動者の日(献金)
27 水	教区健康の日(教区月修)

10 月	
5 木	〔常任司教委員会〕
11 水	10時 顧問会 13時半 第200回 司祭評議会
15 日	INTERNATIONAL DAY
22 日	世界宣教の日(献金)
25 水	10時半 教区月修
29 日	教区典礼研修会

友のために自分の命を
捨てること、これ以上に
大きな愛はない。

ヨハネ15・13



11 月	
1 水	諸聖人
2 木	死者の日 〔常任司教委員会〕
3 金	11時 教区納骨者および死者 祈念ミサ(カテドラル)
8 水	10時 顧問会
9 木	ラテラン教会の献堂
10 金	聖レオ1世教皇教会博士 レオ池長潤名誉大司教霊名
14 火	日韓司教交流会(～17日迄)
19 日	聖書週間(～26日迄) 貧しい人のための世界祈願日
26 日	王であるキリスト 世界青年の日
29 水	10時半 教区月修

12 月	
3 日	宣教地召命促進の日(献金)
6 水	10時 顧問会
7 木	〔常任司教委員会〕
8 金	無原罪の聖マリア
14 木	〔臨時司教総会〕
25 月	主の降誕
26 火	11時 みことばの祭儀(教区月修)
30 土	(教区本部事務局年末年始休業 2023.12/30～2024.1/4)
31 日	聖家族

2024年 1 月	
1 月	神の母聖マリア 世界平和の日
5 金	(教区本部事務局2024年始業)
7 日	主の公現
8 月	主の洗礼
11 木	〔常任司教委員会〕
14 日	14時 第22回 教区宣教司牧評議会
17 水	教区新生の日〈1・17〉 10時 顧問会 13時半 第201回 司祭評議会
18 木	キリスト教一致祈禱週間(～25日迄) 神のことばの主日
21 日	10時半 教区月修
24 水	世界こども助け合いの日(献金)
28 日	聖トマス・アキナス司教教会博士 前田万葉大司教霊名

2 月	
1 木	〔常任司教委員会〕
2 金	主の奉献
3 土	福者ユスト高山右近殉教者 ユスト高山右近列聖祈願のつどい
5 日	日本26聖人殉教者
7 水	10時 顧問会
11 日	世界病者の日 新教会建設献金の日
13 火	〔定例司教総会〕(～16日迄)
14 水	灰の水曜日(大斎・小斎) 四旬節愛の献金(四旬節中)
28 水	10時半 教区月修

3 月	
1 金	性虐待被害者のための 祈りと償いの日
7 木	〔常任司教委員会〕
13 水	10時 顧問会
19 火	聖ヨセフ
20 水	教区召命の日
21 木	大阪教区司教座聖堂献堂記念日
24 日	受難の主日(枝の主日)
27 水	11時 聖香油ミサ 司祭金銀祝 (カテドラル)
28 木	聖木曜日(主の晩さん)
29 金	聖金曜日(主の受難、大斎・小斎) 聖地のための献金
30 土	聖土曜日
31 日	復活の主日 教区会計年度末

緑……典礼歴(祝祭日)
赤……祈願日など
黒……教区行事・その他
※予定は変更になる場合があります。

イエスにならう生き方を求めて

悩みを持つ人々の痛み寄り添い、
その悩みを少しでも分かち合うことのできる
教会共同体をめざして

日本カトリック司教団著「いのちへのまなざし」
増補新版より

「子どもたちを

わたしのところに來させなさい」

カトリック垂水教会担当司祭 林和則



2021年度に「不登校」とされた小中学生は、過去最多の24万4940人であったことが文部科学省の全国調査で判明しました。この数字は子どもたちが学校の中に「居場所」を失いつつあることの深刻さを表わしています。ジャーナリストの小林未希さんは次のように指摘しています。「公教育の現場で、子どもたちは商品のように『規格内』であるように求められ、『効率的』に『普通』にできなければ『規格外』だとされてしまう現実もある(1)。」

この背景には生産性を重視するわたしたちの社会の在り方に問題があります。教皇フランシスコは現代世界を「生産性を追い求める文化」とし、人間の価値も生産性によって測られ、生産性の低い高齢者などの弱者が切り捨てられる「使い捨て文化」であると非難しています(2)。子どもたちも社会の生産性を高めるための「規格品」となることが学校教育の目的となっているのかも知れません。この状況に抗して子どもたちの「居場所」づくりを努力されている方がたには共通する思いがあります。「この「もの里」の莊保共子さんのことばを借りれば「自分の存在を認め受け入れてくれる場で、『ありのままの自分でいい』と自己を受け入れられる場」であるということ(3)です。このためには「いろんな人がいていいんだ」という多様性が必要で(4)、それは人間を「規格化」しようとする流れに立ち向かうことです。

そして「居場所」とは実は「場所」ではなく、「人」であると思います。そこに行けば、自分ありのままに受け入れてくれる人がいる。みんなとちがっていてもいいじゃないか、と笑ってくれる人がいる。その人たちとの交わりこそが「居場所」であるはず(5)です。

「居場所」となる「人」の原点こそが「イエス・キリスト」です。イエスはいつも社会の中で行き場を失った人たちの「居場所」になっていました。娼婦と考えられるマグダラのマリア、嫌われ者の徴税人のザアカイ、人目を避けて生きていたサマリアの女など。そして当時、見下げられていた子どもたち。弟子たちでさえも、子どもたちを追



《引用》

- (1)「ルポ 子どもたちの拒絶」(世界11月号岩波書店)
- (2)教皇フランシスコ、2022年2月23日一般謁見講話(カトリック中央協議会)
- (3)2021年度こどもの里事業報告書付録⑥
- (4)マルコによる福音書10章13-16節

2023年1月29日～5月5日



シナピス こども基金

「こどもの権利を知る」

キャンペーンが始まります

シナピスの「こども基金」では、1月29日の「世界こども助け合いの日」から5月5日の「こどもの日」まで、「こどもの権利を知る」啓発期間として特別キャンペーンを実施します。

このたび、シナピスでは初めての試みとして、「こどもには一人の人格としての権利があること」「親や大人の所有物ではないこと」を大人が自覚する「学びの時」をもつことにいたしました。このキャンペーン期間中に「こどもの権利を知る」セミナーや映画上映会や遊びの会などを企画してみませんか。こども基金の趣旨に合う活動と認められたグループ団体には、こども基金から援助があります(上限あり)。

みなさんの豊かなアイデアで「こどもの権利を知る」啓発運動をぜひ一緒に！



こども基金担当者
しょうほどもこ
莊保共子

例えば……企画の一例です。

★こども基金の支援先からの報告会

→極寒と飢えに苦しむアフガニスタンの子どもたちの現状を聴く

★「こどもの権利を知る」すごろく遊び大会

→国連の「こどもの権利」条約のわかるすごろく(関西こどもの権利条約フォーラム製作)



★こどもの声を聴く日「大人は大問題！」

→色々な背景を持つ子どもたちに語ってもらい大人はひたすら聴く

★映画上映会「さとにきたらええやん」など、こどもの権利にちなんだ映画鑑賞会

→映画監督と映画出演者とのトークショーを楽しみながら茶話会を開く

★「日本に生まれ育つ仮放免の若者たちに定住の道を」若者のアピールと司教団のYouTubeメッセージを味わう

*企画のお手伝いをいたします。

★こども食堂 などなど。

シナピスにご相談ください。

「子どもは、愛と理解をもって育てられ、安全・安心に生活できます」このことを国際連合で採択したのが1989年。日本は5年後の1994年4月22日、全世界158番目に批准しました。あれから28年、2022年5月17日、ようやく日本で国の責務として「子ども基本法」が成立し、「こども家庭庁」として今年2023年施行されることになりました。この28年の間に、子どもたちの取り巻く環境は、安心安全に生活できるようなものになったのでしょうか。

日本の子どもたちが、いま、どんな社会状況と環境の中で生きているのかを知る必要があると思います。例えば、文部科学省が全国の市区町村の教育委員会を対象に行った調査によると、外国籍のこども約1万人が「不就学」に陥る実態が明らかになっています。調査によりますと、2021年5月の時点で、住民基本台帳に登録されていた小中学生の年齢にあたる外国人の子どもは合わせて13万3310人で、このうち不就学のおそれがある子どもは7.5%にあたる1万46人に上っています。

カトリック教会は、神の家として「重荷を負うものは来たれの場」として、そして何よりも、愛と理解のある安心・安全な場として、つまり「居場所」として在ることが求められています。教会こそが「居場所」となれるのではないかと考えます。

諸宗教対話委員会◆イスラムとの対話

「シャハーダ」——イスラムの第一の柱



講師のフランシス・ザビエル・プルハスタント神父

2022年10月29日(土)、17時半から本部事務局1階会議室で諸宗教対話活動の一環として、「イスラムとの対話」が行われた。

今年度の本委員会の第3回目の行事は、イスラムとの対話に初めて焦点を当てた。この5年間の活動で、神道や仏教とのさまざまな教派、またあらゆる新宗教の方々と出会い、その宗教について多く学び対話してきたが、世界第2位の信者数を誇る宗教、イスラムについて学ぶ時がこれにきたのである。もちろん、たった1回の講義でイスラム全体を紹介することはできないので、今回は「イスラムの五つの柱」の第一番目、つまり創始者ムハンマドの宗教の基礎を中心にして講演が行われた。「第一の柱」は、アラビア語で「シャハーダ」と呼ばれるイスラムの信仰告白だ。「アッラーのほかに神はない。ムハンマドはその使徒(預言者)である」という内容である。

講師は、広島のエリザベト音楽大学に勤めるイエズス会士のフランシス・ザビエル・プルハスタント神父。講演は会場に興味深い質問を呼び起こし、カトリック教会、プロテスタント教会、その他の宗教から集まった約35人の参加者は多くのことを考えさせられた。今後、諸宗教対話委員会の活動の中で、他の4つの柱に関する講演を順次重ね、イスラムの研究を続けていくことを検討している。

(諸宗教対話委員会 ロック・ビビアーノ神父)

教区監査の集い 相互監査が復活

2022年の中間決算が、12月の顧問会によって承認され、終了した。この決算では、コロナ禍により中断されていた相互監査が、2019年度中間決算以来3年ぶりの復活となった。

大阪大司教区では、2001年度から自教会監査の会計監査制度を導入、2003年度から「ブロック相互監査制度」を開始した。この歴史の中で、3年間に及ぶ相互監査の中断を余儀なくされたのは初めてであった。

相互監査の復活を受け、教区監査チームによる監査も復活した。教区監査チームは2011年度に発足。現在は第4期、前田万葉大司教任命による16人のメンバーに監査をお願いしている。2011年度決算の和歌山地区から始まり、今回の北摂・大阪北地区で2巡目が終了したことになる。

監査チームのメンバーは、姫路地区から和歌山地区まで、遠い地域も手弁当で監査に赴き、多くの教会で教区への要望やご相談を聞き、会計の基礎的なことをお伝えしてきた。時には小教区財務委員の皆様や信徒代表の皆様のご協力のもと、会計の在り方を大きく変えていただいたこともあり、大きな結果を残している。

(文 教区本部事務局 経理課)

「生きる」——難民移住者

盗癖男と黄昏どき

ソンさん(仮名)は、刑務所で泣きながら服役をしていました。彼は15歳の時に難民として独りで日本に漂着して以来、良い大人に出会うことなく、窃盗集団の「パシリ」(使い走り)をさせられたり、覚せい剤を使用したりして何度も服役を重ねてきました。出所して仕事に就いても、クスリ仲間と呼ばれては金銭をせびられ、誰かが捕まれば罪をなすりつけられ、懲罰を受ける繰り返しでした。



2021年の夏にソンさんは薬局で腰痛に効く鎮痛剤を万引きし「御用」となり、私は情状

証人として法廷に立ちました。そのとき彼は初めて法廷で涙しました。服役中は毎月欠かさず「泣きながら書いてます」と私に手紙を送りました。1年後、仮釈放が認められ、ソンさんは「私、人生変わった」「もう悪い友だち、関係しない」と言い、力仕事をみつめて愛知県へ移ってゆきました。その3か月後、ソンさんは再び捕まりました。スーパーマーケットで果物を購入した後に売り場に返って苺2パックを万引きして取り押さえられたということでした。「累犯の多さ」「出所3か月後の犯行」で実刑は免れない見通しでしたが、弁護士と私は検察庁、警察署、地裁を廻りました。諦めずにお願ひした甲斐がありました。

(文 シナピス事務局 ビスカルド篤子)

信仰養成連続講座

ゆるしと和解 病者の塗油 経路 洗礼

エウカリスチア

カテキズム第2編: 「キリスト教の神秘を祝う」

月 日: 毎月 第4木曜日 (8月・12月休み) 2023年1月26日 (木) スタート

場 所: サクラファミリア (大阪梅田教会)

時 間: 18:30 ~ 20:00 (配信あり)

講 師: 酒井俊弘補佐司教

費 用: 無料

申込み不要・随時参加可能

主催: カトリック大阪大司教区 信徒養成委員会
問合せ: 大阪教区本部事務局 (06-6941-9700)

来し見なほ



ヨハネ 1・46

※詳細は各主催者へ直接お問い合わせください。

教区委員会主催

信仰養成連続講座◆カテキズムの第2編「キリスト教の神秘を祝う」

日時 1/26(木)18:30~20:00
講師 酒井俊弘補佐司教
場所 サクラ ファミリア /YouTube配信あり
問 ☎06-6941-9700
主催 使徒職養成委員会

2023年キリスト教一致祈禱週間 共同礼拝

テーマ 善を行い、正義を追い求めなさい
内容 全世界の教会と一緒に、教派をこえて、キリストに従って歩み、一つに結ばれて、神の愛を証するように祈ります。

◆兵庫会場

日時 1/20(金)18:00~19:15
司式 酒井俊弘補佐司教
場所 カトリック住吉教会

◆和歌山会場

日時 1/21(土)14:00~15:15
司式 酒井俊弘補佐司教
場所 カトリック和歌山紀北教会

◆大阪会場

日時 1/25(水)18:00~19:15
司式 前田万葉大司教
場所 大阪カテドラル聖マリア大聖堂

主催 エキュメニズム委員会
問 ☎06-6941-9700
✉ rd-ecm@osaka.catholic.jp

サクラ ファミリア主催

聞かせてください 神さまと出会った時のこと~エマオへの道で~◆大阪教区で働く司祭・修道者ご自身の体験をきく
日時 2/6(月)18:00~19:30 (夜の部)・2/7(火)10:30~12:00(昼の部)※両日とも同じ内容となります
おはなし 野田正弘神父

コレーン神父と学ぶ聖書◆マルコ福音書におけるイエスと共に「十二使徒の姿と歩み」

日時 1/16(月)13:30~15:00 (1~4月開講)
参加費 ¥500

「新生の明日を求めて」読書会◆大阪教区のシノダリティ(ともに歩む)の原点を確認しよう

日時 毎週(月)(第2は休み)14:00~15:30
担当 松浦信行神父

聖書通読会◆聖書のダイナミックな流れが感じられます

日時 毎週(木)10:00~11:30
担当 松浦信行神父

「YOUCAT(青年向けカテキズム)」勉強会◆老いも若きも、キリスト教を理解しよう

日時 毎週(金)19:00~20:00
担当 松浦信行神父

祈りのよる◆灯りをかこみともに祈る静かな時間を

日時 毎月17日 19:00~19:30

問 サクラ ファミリア
☎06-6225-8871
✉ f.sacra@osaka.catholic.jp

結婚準備講座

夙川教会

日時 次回2/4(土)~2/25(土) 4回 16:30~18:00
参加費 ¥5,000(2名)
問 ☎0798-22-1649

六甲教会

日時 次回2/4(土)~3/25(土) 8回 17:30~19:00
参加費 ¥10,000(2名)
問 ☎078-851-2846
※事前要問合せ(年2回)

黙想会

宝塚黙想の家

◆日帰り黙想会
日時 1/10(火)・1/26(木)・1/27(金)10:00~15:30
指導 稲葉善章神父(1/10) 染野治雄神父(1/26) 山内十束神父(1/27)
参加費 ¥3,500

◆一泊黙想会

日時 1/10(火)17:00~1/11(水)15:30
指導 稲葉善章神父
日時 1/20(金)17:00~1/21(土)15:30
指導 染野治雄神父
参加費 ¥9,000

◆聖地エルサレムを学ぶ

日時 毎月第3(木)10:00~12:00
指導 笹田六合豊修道士
参加費 ¥1,000

◆ギリシャ語で味わう聖書のことば

日時 1/17(火)10:00~12:00
指導 稲葉善章神父
参加費 ¥1,000

◆カトリック教会のカテキズム

日時 第2・4(水)10:00~12:00
指導 染野治雄神父
参加費 ¥1,000

◆祈りを深めるための聖書の基本

日時 第1・3(水)10:00~12:00
指導 山内十束神父
参加費 ¥1,000

問 宝塚黙想の家 ☎0797-84-3111

講座・研修会

講座 本田哲郎神父◆小さくされた人々のための福音

日時 毎月第3(金)10:00
場所 神戸学生青年センター
参加費 ¥1,000
問 岩村 ☎070-5045-7127
主催 神戸国際支縁機構

集い

シナピス主催◆オンライン祈りの集い~世界平和のために祈ろう~

日時 毎月第2木曜日 20:30から30分
テーマ 世界の平和
参加方法 Zoom(100名まで参加可能)
Zoomミーティング ID: 761 071 2034
パスコード: 123456
主催 社会活動センター・シナピス
問 ☎06-6942-1784 ☎06-6920-2203
✉ sinapis@osaka.catholic.jp
HP https://sinapis.osaka.catholic.jp/

大阪JOC◆働き方や生き方について現状から共に考える

15~35歳までの若者の集い
日時 第4(土)14:00~16:00
場所 大阪YCWセンター (またはZoom)

問 レネ神父・水元

☎072-232-8063
✉ osakaycw@gmail.com
HP http://www.ycw.jp/

要約筆記グループ「エッファタ!」練習会◆教区ミサに要約筆記(文字表示)をつけるボランティア

対象 要約筆記に関心のある方。フリーソフトcaptiOnlineを使いパソコンまたはスマホで練習します。
日時 毎月第2(水)10:00~12:00
場所 教区本部事務局 1階会議室
問 障がい者委員会
✉ dis@osaka.catholic.jp

主催 要約筆記グループ「エッファタ!」

精神・発達症(障害)者自助グループ◆オリーブの集い

守秘義務と分かち合い いつ来てもウェルカム 当日キャンセルOK
日時 毎月第3(日)14:00~16:00
場所 姫里集会所
参加費 ¥100
クリスマス会用積立カンパ
申込 吉川まで
問 ☎078-583-2525
✉ yassan.yoshikawa@nifty.com

カ障連大阪フレンドリー◆点字部の勉強会

対象 パソコン点字に関心のある方、視覚障がい者の情報共有に関心のある方
日時 奇数月・第2(火)13:30~15:00
場所 姫里集会所
申込 笠松まで
問 ☎090-5661-4324 ☎072-722-0271
✉ kasamatsu-yukisan@iris.eonet.ne.jp

マザー・テレサ共労者の集い

日時 第1(土)14:00
場所 大阪梅田教会
問 高塚 ☎06-6921-0693
姫路・加古川・六甲教会はコロナ禍が収まり次第再開

教区本部事務局 職員募集

福音宣教に協力し、一緒に働いてくださる職員を募集します。

【職務内容】 一般事務
【歓迎するスキル・経験】 ワード・エクセル・語学などが堪能な方
【待遇】 当法人規程による/社会保険等有
【採用時期】 要相談
【試用期間】 3ヶ月
【応募方法】 1月末日までに履歴書を郵送ください。選考は書類審査の後、面談を予定しています。
【問合せ】 TEL:06-6941-9700(閑蔵) (平日のみ午前9時~午後5時)

新コラム投稿募集

(800字程度+写真1枚)

- ①か②のお題を1つ選び、『大阪カトリック時報』宛にお名前、所属教会、連絡先記載の上、メール・郵送・FAXのいずれかでご応募ください。
- ①「わたしの教会のいいところ」 所属教会のお宝・自慢できるところを紹介
- ②「ちょっとイイ話」 教会や家など身近にあった心温まるエピソード紹介

編集後記

ペットロスは深刻な悲嘆をもたらします。悲しんでいる人の声を聞いて、「なくなったペットへの祝福の祈り」を開きました。▼写真を持ちより、その前で神様からの慰めを祈ります。また、生前のエピソードや現在の心境を分かち合いました。涙ながらに話される言葉に、ペットへの深い愛情があふれます。最後は、全員で大きな声で感謝の言葉を写真へ贈り、別れを告げます。▼SNSの告知に心えて、福岡や神奈川から写真を送ってくださる方もいました。▼私にも愛猫を突然失い、人生で一番涙したことがありました。このささやかな祈りが、ペットと別れてしまったことで悲しさや寂しさを感じている人の癒しになればと念じています。

(広報委員会 川柳裕明)

司教予定

(5面「行事等日程」以外)

- ・20日(金) 住吉教会 キリスト教一致祈禱週間共同礼拝(+S)
 - ・21日(土) 和歌山紀北教会 (同上)(+S)
 - ・25日(水) 大阪カテドラル (同上)(+M)
- +M=前田万葉大司教 +S=酒井俊弘補佐司教



セクシュアル・ハラスメント相談窓口

電話番号:06-6941-9718

相談窓口受付時間

月・火・金曜日(祝日を除く) 午前10時~午後4時

あなたの悩みを親身になって受け止めます。秘密は守られます。

青年のための錬成会 私とあなたの我が家

1/28(土) 13:30▶29(日) 15:00

枚方クラレチアン・レジデンス (高校生3年生以上の青年)

【一泊二日 参加費(当日支払)】
高校3年生・大学生 1000円
社会人 2000円

みなさまと会えることを楽しみにしています!



お申込み 1/15まで

青年有志企画 青少年司牧委員会 後援

